

みずばやしした
水林下遺跡 令和2～4年発掘調査

一般国道7号遊佐象潟道路建設事業に伴い3次にわたり発掘調査が行われました。旧石器時代から近代までの幅広い時代の遺構や遺物が検出されました。約3.5～

2.8万年前、後期旧石器時代前半期の石器群の出土が注目されます。県内最古の事例となる磨製石斧は、長野・富山付近で産出される透閃石岩（ネフライト）で、当時のヒトとモノの往来の様子がうかがわれます。



県内最古の磨製石斧

すぎさわ
杉沢C遺跡 令和2・3年発掘調査

農地整備事業に伴い2次にわたる発掘調査が行われ、縄文時代と近世の集落の様子が確認されました。縄文時代中期前葉から晩期末葉、特に後期前葉の縄文土器がまとまって出土しました。縄文が施されただけの粗製土器の深鉢が多く出土し、川の側で煮炊きなどを行っていたことが推測されます。近世の宿坊と考えられる建物跡も多数検出されました。



出土した縄文土器



公益財団法人
山形県埋蔵文化財センター
 〒999-3246
 山形県上山市中山字壁屋敷 5608
 TEL:023-672-5301 FAX:023-672-5586
 HP:<http://www.yamagatamaibun.or.jp>
 E-mail:yac@yamagatamaibun.or.jp



(公財) 山形県埋蔵文化財センター市町村巡回展

共催：遊佐町教育委員会

発掘された

遊佐町の遺跡

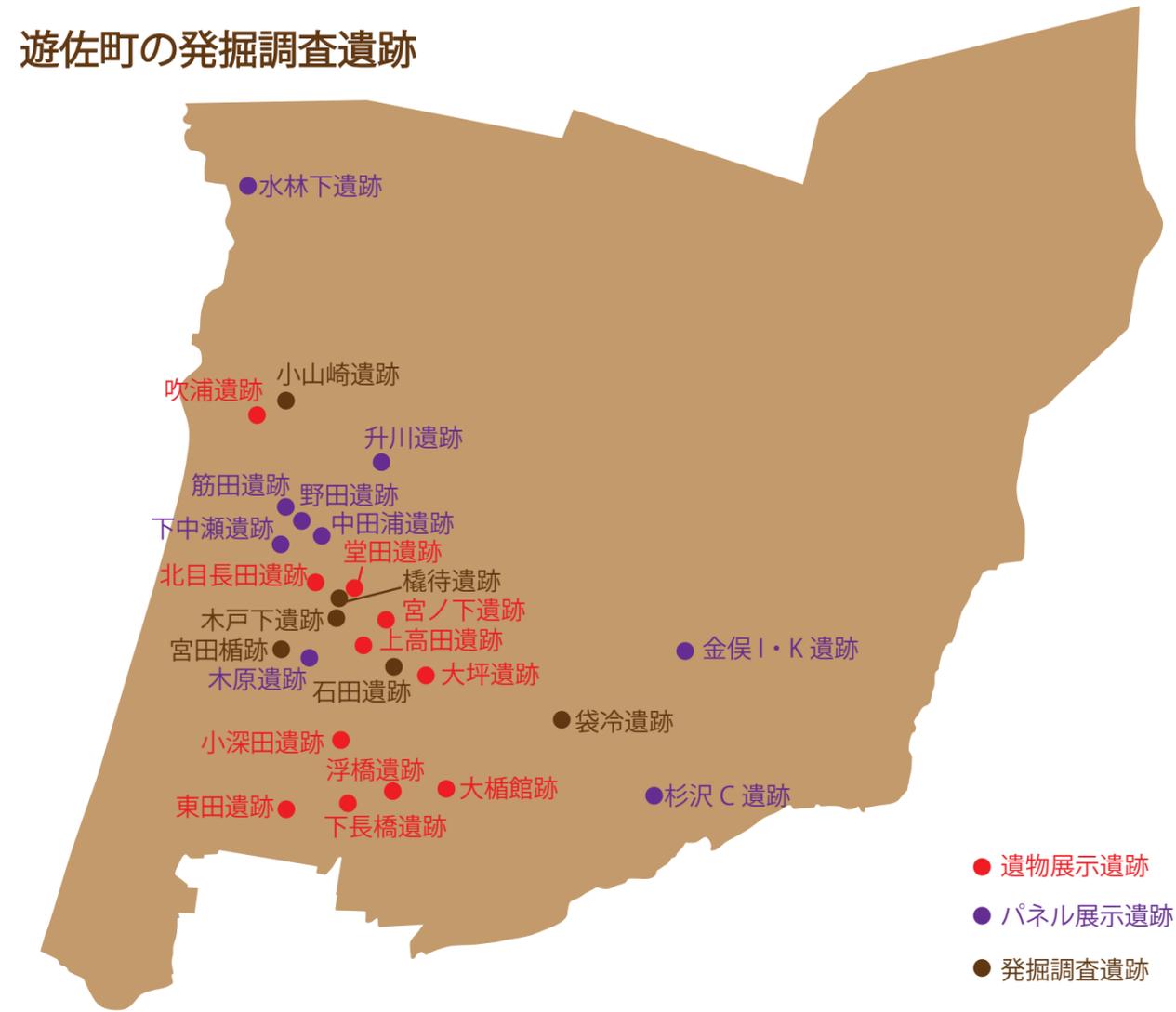


令和5年1月11日(水)～2月7日(火) 遊佐町生涯学習センター展示室
 ギャラリートーク：1月22日(日) 13:30～14:10

ゆざまち はくつちようさ
遊佐町の発掘調査

遊佐町は山形県の最北端に位置しています。その北には鳥海山がそびえ、西には日本海が広がっています。町内には旧石器時代から近世までの遺跡が210ヶ所確認されています。縄文時代と平安時代の遺跡が多く、古くから居住地として恰好の場所であったことがわかります。その内、山形県教育委員会と山形県埋蔵文化財センターによって27遺跡の発掘調査が行われています。

遊佐町の発掘調査遺跡



ふくら
吹浦遺跡

国道7号線吹浦バイパス建設工事に伴い4次にわたる発掘調査が行われ、縄文時代前期末（約5500年前）と平安時代前半（約1200年前）の大きな集落があったことが明らかとなりました。



かみたかだ
上高田遺跡

4次調査区（西側）



フラスコ状土坑と土坑出土の土器

県営ほ場整備事業および国道345号線改築工事に伴い3次にわたる発掘調査が行われました。平安時代前期の蛇行する旧河川跡が検出され、さいし祭祀の道具などを含む大量の木製品や、墨で文字が書かれた土器が出土しました。



河川跡の調査風景



河川跡から出土した人形と墨書土器

ひがしだ
東田遺跡

県営ほ場整備事業に伴い発掘調査が行われ、平安時代、8世紀後半から10世紀にかけての遺構や遺物が確認されました。うるしがみりょくゆう漆紙や緑釉陶器、かいゆう灰釉陶器、硯など通常の集落跡には見られない遺物が多く出土しています。



おおだてたてあと
大楯館跡

調査区B区全景



遺物が出土した土坑と二面硯

県営ほ場整備事業に伴う発掘を含む4次の調査が行われています。遊佐荘しょうけの荘家に関すると考えられる遺構が検出されました。板塀を伴う方形の堀の内側には、館跡とみられるそせき礎石建物跡や井戸跡などが確認されています。



石組遺構全景



板塀跡